

ふくしま 再生 短信



1



雪とバイアルそして協働

全村田圃土壤測定プロジェクト同行記PART2



2



3



4



5



6



7



8

【写真説明】1. バイアル（試料瓶）を手に説明する齋藤富子さん。2. ～6. 実際の試料詰め作業。7. 採取した土壌と試料詰めを待つバイアル群。8. 一同で。背景写真は作業が行われた再生の会霊山センター。

2017年1月29日午前9時、深い雪に覆われた再生の会霊山センターにおいて全村田圃土壤測定プロジェクトの試料のバイアル詰め作業が行われた。バイアルに詰められる土壌の採取は、各行政区毎にその村民が参加して行われている。

冒頭サークル「までい」の齋藤富子さんから作業の流れとバイアル詰めの実際について説明があり、計7つのテーブルに分かれて作業が始まった。プロジェクト全体は、飯館村との28年度業務委託契約により業務を受託したふくしま再生の会により実施されている。この日村民から、高橋あけみさん・菅野和子さ

ん・菅野忠子さん・菅野啓一さん・菅野千恵子さんが、再生の会メンバーと共に作業に参加。バイアル詰め作業を請け負ったいいたて協働社の菅野宗夫さんも応援に駆けつけた。

正確な土壤測定のためには均質な状態でのバイアル詰めが必須となる。細心の注意と工夫が求められるところである。昼食をはさんで午後3時この日の全作業を無事終えた。

試料詰めを終えたバイアルはサークル「までい」に送られ基礎データ入力後に東大農学生命科学研究科研究室で測定が行われる。バイアル詰めは次週以降も続けて実施される。

（文責&撮影・若林一平）